

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。

小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、4学年ごとに3つの活動区分『低学年』『中学年』『高学年』を設けています。

「低学年」(1-4年)＝小学1～4年、「中学年」(5-8年)＝小学5年～中学2年、「高学年」(9-12年)＝中学3年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

2017年度 玉川学園 学校評価 (学校関係者評価結果)

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2017年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

本学への要望・期待

◆幼稚園

- ・低学年一般クラスについて、英語以外に一般クラスならではの魅力を伝えてほしい。
- ・保護者だけではなく、年長の園児が1年生と直接的に関わる機会を増やすことで、進路ややりたいことに対する意識が芽生えるのではないかと。
- ・4年生と5年生の関わりを今以上に増やすことや3年生の時から中学年の様子を伝えることで、もっとスムーズに中学年からの生活に入れると思う。
- ・保護者に対しては、年長の時に低学年の説明会が開かれるが、年少・年中の時に説明会があると、一般クラスとBLESクラスの選択など、進路について長い時間をかけて検討ができる。
- ・保護者にとってわが子の数年後の姿を想像できる異学年交流のような、縦の関わりを設けてほしい。
- ・コスモス祭の時に大学で腐葉土の研究をしている方と関わる有意義な経験をしたが、保護者だけではなく、子どもたちがディビジョンを越えて関わりあえる機会が増えればよいと思う。
- ・日程の都合上、親学講座に参加できない保護者もいるため、動画配信を検討してほしい。
- ・お弁当ではなく、月に1・2回程度、食堂で子どもたち皆が同じものを食べる機会があってもよいのではないかと。

◆低学年

- ・BLESクラスでは、5年生で英検準2級程度の英語力を目指しているが、海外大学への進学にはTOEICやTOEFLが、企業ではTOEICが基準となっているため、英検以外の基準についても検討してはどうか。
- ・BLESクラスは、海外研修を行ってはどうか。
- ・アジアでも英語を使用する国があり、欧米だけではなく、アジアとの交流も検討してほしい。
- ・全ディビジョンに対する意見だが、服装についてのルールが曖昧であり、先生によって判断が異なるケースもあるため、保護者や子ども、先生方が共通意識を持ち、玉川らしい服装を自覚できるよう、規則を整備してほしい。

◆中学年

- ・様々な分野で活躍する保護者を講師とする「夢フォーラム」や、OBから話を聞く機会を増やし、将来何をしたいのか、どのような職業に就きたいのかを考え、学んでほしい。
- ・生活区分の見直しを検討していると報告があったが、中学年は心も体も変化する難しい時期であり、安定的な場になるよう、ケアしてほしい。
- ・高学年の「学びの技」などで、課題を抽出する力や分析力は高まっているが、さらにそれを主体的に実践・実行する力も育成してほしい。

◆高学年

- ・なぜ学ぶのかを考え、「生きる力」を身につけてほしい。
- ・高学年の段階では、生徒が「根拠がある自信」を持てるよう、メンタルを鍛えてほしい。
- ・生徒自身が、なぜ日本語だけではなく英語を学ぶのか、その意味を考えてほしい。
- ・「営業」や「金融」など、社会について学ぶ機会を増やしてほしい。
- ・英語だけではなく、「日本 (歴史)」を学ぶ機会を増やし、海外で日本について説明できるような人を育ててほしい。
- ・職業体験コースやOBの話を書くことなど、職業について詳しく学ぶ機会を増やしてほしい。
- ・将来について本人が自由に選択することも大切ではあるが、後継者教育にも注力してほしい。